シマヘビの場合

1977年3月28日16時17分、ヤマカガシ（1頭。他にアオダイショウ1，シマヘビ3が同居）の餌にドジョウを約30匹いれ、キングコブラの餌にとシマヘビを1頭つかまえ手前にひっぱったとき交尾に気づいた。捕えたのは♂で左の hemipenis が右の vulva にはいっていた。このシマヘビは2月25日にキングコブラの餌用に購入したもので3頭残っていた。このため交尾してない個体をキングコブラに与え、もどると交尾中の♀がドジョウを追いかけて食べていた。写真を撮ろうとしたがなかなかよい位置に来ないので、鉗子でドジョウをはさみ♀の吻部にあててやるとすぐ食べた（オスにもやって見たが食べなかった）。5分位で7匹、少しあとで5匹与えた。鉗子でつかまえそこなったドジョウがはねるとそれもつかまえて食べた。15分位してもう3匹食べさせた。このようにして撮影したのが図2である。

図2 交尾中ドジョウを食べるシマヘビ

♂が動きを見せはじめたのは発見後31分たってからで、このときまでは頭をさげ、♀の動きには無反応だった。その後は頭をもたげ♀にも♂にも交尾を終らそうとする動作（hemipenis をぬこうとしようように見えた）を見せたが離れなかった。その後殆んど動きを見せなくなったので、見はじめてから2時間半で観察は中止した。♀はその後5月16日に9個産卵し、この卵は6月27～28日に全部孵化した。

以上2例とも食欲を示したのが♀で、♂は餌に全く反応していない。交尾期間中♂の食欲が減退し、全く食べないものも見られるから、交尾中の♂が食べないのは当然のことかもしれない。給餌は2例とも偶然に行なったものである。交尾しているとき給餌する機会はかなり少ないが、意識的にやればこうした例はかなり増えることが予想される。

伊豆大島のヘビ

原 幸治（東京都恩賜上野動物園）

Snakes of Izu-Oshima. Koji HARA (Ueno Zoo)

伊豆大島は東京都の南海上に南北にのびる伊豆諸島の北端に位置している。私は先にこの島にヘビはアオダイショウ、シマヘビ(黒化型)、ニホンマムシの3種が分布し、他にセグロウミヘビがとれた可能性があるとして述べた（原，1977）。その後ゴリス・寺田（1977）はシロマダラを追加した。以上がこれまでに知られた大島の蛇類相である。

1977年4月1日と10月20日にジムグリとシロマダラが上野動物園水族館に届けられた。採集者はいずれも浜岡悦郎氏である。

ジムグリは1977年3月25日に大島東部の桜株^{サクラカブ}で採集された。全長960mm, 頭胴長795mmの♂である。腹板は218枚。尾下板は70対。肛板は2分している。体鱗は胴の中央で21列, 頸部の最前部で25列, 肛板のすぐ前で17列ある。上唇板は8枚で, 第4—5上唇板が眼に接している。下唇板は9枚。眼前板は1枚。眼後板は2枚。側頭板は2+2枚であるが, 前列の上のものは眼後板とは接せず, 下のものの半分位の長さで, 小さい。背面はやや薄い色をしている。頭部背面の4本の黒条ははっきりしない。腹面はやや赤味を帯びているが黄色っぽく, 暗斑は大きなブロック状のものではなく, 腹板のたての長さよりやや小さい位の大きさである。暗斑の色も薄いので全体にあいまいな感じの色調といえる。中村・上野(1963)によると本土のものでは第3—4上唇板が眼に接するとしているが, これは上唇板が7枚の場合で, 8枚の場合第4—5上唇板が眼と接するのではないかと推定されるので鱗数の面からはこれといったちがいはなく, 体色が薄く, 黒斑が余り大きくない点が異なる点である。ジムグリは大島からははじめての記録と思われる。

シロマダラは1977年10月17日大島東部のミミズ(大島公園の南)で採集された。全長649mm, 頭胴長521mmの♀であった。腹板は204枚で, 203枚目と204枚目の間に小鱗が1枚ある。肛板は2分している。尾下板は70対。体鱗は19—17—15列。上唇板は8枚で, 第3—5上唇板が眼と接している。下唇板は左9枚, 右10枚。眼前板なし。眼後板2枚。側頭板は2+3枚。背面の黒色の横帯あるいは斑紋は胴に45個, 尾に18個である。この個体の特徴は本土のものとはよく一致している。シロマダラはゴリス・寺田(1977)により1個体報告されているからこれが2個体目にあたる。

「伊豆大島の観光資料館に“31.4.20 泉津漁協寄贈”のセグロウミヘビは東京産の可能性があります」(原, 1977)と記したものは, 「捕えた場所は〔伊豆大島の〕泉津漁協の船揚げ場とわかりました。又, その場に居合わせた人に聞いたのですが捕えた人は誰か記憶にないそうです」(1977年3月23日付浜岡悦郎氏よりの私信)ということで, これによりセグロウミヘビが大島で採れたことがはっきりした。ウミヘビについては小泉正行氏によると1976年と1977年に大島と三宅島でセグロウミヘビでない別のウミヘビが採れたということで氏の発表がまたれる。

以上により伊豆大島の蛇類相は陸棲蛇5種と海蛇2種(うち1種は未詳)の計7種ということになる。

稿を終るにあたり標本と情報を下さった浜岡悦郎氏に厚くお礼申しあげる。

文 献

- ゴリス, R. C.・寺田 博 1977. 伊豆大島の爬虫類と両棲類〔講演要旨〕. 日本爬虫両棲類学会第16回大会プログラム・講演要旨: 12.
- 原 幸治 1977. 東京都のヘビ. どうぶつと動物園 29(1): 10-13.
- 中村健児・上野俊一 1963. 原色日本両生爬虫類図鑑. 保育社, 大阪.